

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)開成町新庁舎	階数	地上3F
建設地	神奈川県足柄上郡開成町延沢773番	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	200人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,600時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2018年3月10日
敷地面積	5,458 m ²	作成者	株式会社松田平田設計 横浜事務所
建築面積	2,150 m ²	確認日	2018年3月15日
延床面積	3,893 m ²	確認者	株式会社松田平田設計 横浜事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 4.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 64%

③上記+②以外のオンサイト手法 46%

④上記+オフサイト手法 46%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 4.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 4.0

3 設計上の配慮事項		
総合 ・安全・安心の総合防災拠点となる庁舎 ・交流・情報・対面サービスの充実した庁舎 ・地球環境への負荷、ライフサイクルコストを削減するZEB庁舎 ・親しみやすく出会いやにぎわいを創出する庁舎 4つの基本方針を基に開成町らしい「田舎モダンを象徴する庁舎」に向けて、自然環境を効率よく活用し、極めて高度に洗練された技術を提供した新庁舎		その他 ・日本初のZEB庁舎として、ニアリーZEBを取得(太陽光発電約159KW)
Q1 室内環境 ・大庇のある開口部、ダブルスキン外装、Low-Eガラスの採用 ・ハイサイドライトによる自然採光・換気 ・輻射冷暖房空調 ・人感、明かりセンサー制御によるLED照明 ・地中熱利用 ・免震ビットによる換気利用	Q2 サービス性能 ・木材の多用(ダブルスキン内側の木建具、天井フレーム(LVL)、床材) ・執務スペースの天井高確保(1F:3m、2F:2.95m) ・ハイブリッド免震構造(RC、S、W造)	Q3 室外環境(敷地内) ・緑地、水景(ビオトープ)による修景 ・建物高さを抑えた計画(2階建一部3階建) ・ピロティや庇空間による中間領域
LR1 エネルギー ・BPI:0.66 B E I:0.19 ・BEMSの採用 ・ハイサイドライト部に採光反射板の設置	LR2 資源・マテリアル ・雨水利用システム ・日射遮蔽、構造に寄与した重ね格子木	LR3 敷地外環境 ・LCCO2低減率54% ・適切な駐輪場、駐車場計画 ・利用者用、管理者用に分けた車両動線計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される